

Automotive Linux Summit 2016  
LinuxCon Japan 2016  
Short Report

Panasonic Corporation

**加藤 慎介**

(kato.shinsuke@jp.panasonic.com)

- Automotive Linux Summit (ALS) **概要**
- LinuxCon Japan (LCJ) **概要**
- **それぞれから抜粋**
  - Keynote Report
  - Session Report
- **その他**

## Automotive Linux Summit 概要

	日時	場所	参加費	参加者	Session	その他
ALS 2011	1 day (11/28)	横浜		約200人		会場のスーツ率 高い！
ALS 2012	2 days (9/19,20)	イギリス (ゲイドン)				
ALS 2013	2 days (5/27,28)	東京	300/350 /450 USD	約150人	約30件 (4会場)	
ALS 2013		イギリス (エジンバラ)				
ALS 2014	2 days (7/1,2)	東京	300/350 /400 USD	約150人	約20件 (3会場)	LCJと別日程
ALS 2015	2 days (6/1,2)	東京	300/350 /450 USD	約150人	約20件 (3会場)	(LCJに比べ) 参 加者の年齢層高 め
ALS 2016	2 days (7/13,14)	東京	325/375 /475 USD	約350人	約30件 (3会場)	過去に比べ明ら かに盛況

Panasonicは2015,2016とスポンサー  
 車載でのLinuxプラットフォームの動きが形になりつつある

# LinuxCon Japan 概要

- **LinuxCon Japanとは？**
  - **Linuxの技術についての国際技術会議（8回目？）**
    - ・エンタープライズ系のLinuxがメイン
  - **主催はThe Linux Foundation**
  - **著名なKernelメンテナーや、世界中のLinux技術者が多数参加**
- **開催日時：7/13（水）～15（金）の3日間**
- **場所：椿山荘（東京）**
- **参加費：350/400/475ドル**（差は早期割引有り無し）
- **参加者：登録者は約600名**（ここ数年横這い）
- **Keynote, Session**
  - **Keynoteは11個, Sessionは5～6会場同時開催, 3日間で80～100個**
  - **ContainerConと共催。実態は1,2会場のSessionがContainerConの枠**

## LinuxCon Japan 概要

	日時	場所	参加費	参加者	Session	その他
Japan Linux Symposium	3 day (10/21-23)	秋葉原			50~60 (5会場)	アジア初開催 (2009年)
LCJ 2010	3 day (9/27-29)	六本木			50~70 (4会場)	名称をLinuxCon Japanに
LCJ 2011	3 day (6/1-3)	パシフィコ 横浜				Linux 20年
LCJ 2012	3 days (6/6-8)	パシフィコ 横浜		約600名	70~80 (5~6会場)	仮想化/Tizen/ コンプライアンス のMini-Summit
LCJ 2013	3 days (5/29-31)	東京 (椿山荘)	300/350 /425 USD	約600人	80~100 (6~7会場)	CloudOpen Japan
LCJ 2014	3 days (5/20-22)	東京 (椿山荘)		約600人	80~100 (5~6会場)	CloudOpen Japan
LCJ 2015	3 days (6/3-5)	東京 (椿山荘)	300/350 /420 USD	約600人	80~100 (6~7会場)	CloudOpen Japan
LCJ 2016	3 days (7/13-15)	東京 (椿山荘)	325/375 /475 USD	約600人	80~100 (5~6会場)	ContainerCon Linux 25年

# Keynote (LCJ)

- Title: The Rise of the Open Source Program Office in Tech Companies Everywhere
- Speaker: Gil Yehuda, Yahoo, Inc.
- **概要**
  - OSSは重要だが、実態として全てのソースコードを考えた場合に、ほとんどはオープンではない。何をオープンにして、何はオープンにしないのか？明確な戦略が必要
  - これは技術の問題ではなく、解決するのは「人」
  - OSSの戦略 → ガバナンス → オペレーション
  - OSSについて考える組織・機能が必要になる。実行する人も必要

# Keynote (LCJ)

- **Title: Fujitsu with Open Source Communities**
- **Speaker: Kenji Kaneshige, Fujitsu**
- **概要**
  - **富士通の10年間のOSSへの取組み**
  - **2005年にLinuxへのContribution専門組織を立上げ**
  - **Q:なぜ富士通はOSSコミュニティと一緒にワークしていくのか？ 機能追加？品質向上？コスト削減？**
  - **A:お客様に、長期にわたって、サービスを提供するため、OSSを持ってくるということだけでサービスすることもできるかもしれないが、それではお客様がOSSのエコシステムを活用することができない。それを10年前に決めた。**
- **加藤雑感**
  - **組織があること・維持できていること、や、このようなKeynoteができること、に富士通のOSSと歩んできた強みを感じ取れた**

- **(タイトルなし) Linus Torvalds氏とDirk Hohndel氏の対談形式パネル**
- **概要**
  - **Kernelのリリース周期はここ最近10週ごと. 今後  
もこれを継続**
    - **新しい機能が間に合わなければ, 次にチャレンジすれば良い**
  - **ARM版のカーネル開発がHot. ハードウェアの進化  
とソフトウェアの開発が良い関係**
  - **メンテナーに必要なスキル**
    - **Good Taste (センス)**
    - **メンテナーは技術的なコミュニケーションができること**



- Kernel Panel
- 概要
  - 日本のカーネルコミュニティの状態は、多くの企業がアッパーレイヤーに移行している様子
  - カーネルレイヤーでは個人レベルの人が少し増えてきている
  - 若い人の取り込み. メンター・メンティーはひとつのやり方
  - カーネル開発への参画について
    - 若い頃、手付かずの問題を解決しようとしたところ、解決するためのパッチがあった。ただ、それが大きかった。なので、それをわけることから始めた
    - メンテナーは「タスクリスト」をそれぞれ持っていて、それを共有することをやりだした。ToDoリストが公開されているので、それを見て出来そうなところから担当してみる、とか
    - 今はカーネルにテストコードもコントリビュートできる

# Keynote (ALS)

- Title: AGL Spec, UCB, and What is next?
- Speaker: Kenichi Murata, Toyota Motor Corporation
- 概要
  - AGLの活動はうまくいっているが、トヨタは満足していない (サプライヤーにさらなる活動を期待)
  - UCB (Unified Code Base) はリリースできたが、そこから何に繋げるか？
    - UCBでプラットフォームに必要な7~8割のソフトウェアを提供できる
  - 今後、高価格 (高機能) ハードと低価格ハードを分けてアーキテクチャを定義
  - 今後、残りのソフトウェア2~3割とハードウェア対応をしていく
- 加藤雑感
  - このKeynoteの前で、AGLのプロジェクトリーダーが「AGLの成果」を意気揚々と述べた後で、1行目の発言だったので、インパクトがあった

# 各Sessionで印象に残ったもの

- **Title: Open Source at Google – How Google Uses and Contributes to Open Source –**
- **Speaker: Marc Merlin, Google**
- **概要**
  - **GoogleのOSS推進（ソースコードのコントリビュート）を担当している部門の人**
  - **実体は6,7名のチーム。これまで5000以上のパッチをLinux KernelにContribute**
  - **Chromiumをはじめ、GoogleのソフトウェアもGithubで公開**
  - **毎年250以上のOSSイベントをスポンサード**
  - **多数（70以上）のOSSプロジェクトをスポンサード**
  - **一方で、GoogleではAfferoGPLは使わないなど、公開/非公開の明確なポリシーもある**